

ネット炎上における偏差値と批判書き込み意欲の関係

小松 尚生

5年前と比べ、ネット炎上の件数は激増している中で、小峯・筑波大学ネットコミュニティ研究グループにより、『「炎上」と「拡散」の考現学』という書籍が著された。この書籍の中では、ネット炎上には「縦社会」が関係すると述べられている。「縦社会」というのは、例えば、「頭がいい人が悪い人を攻撃する」といった構図のことである。しかし、この記述はネット炎上に書き込む側の意識を調査したデータに基づくようなものではない。そこで、本研究は頭の良さによる「縦社会」とネット炎上の関係についての記述の裏付けを取ることを目的とする。ここでの頭の良さとは、書籍に則り、所属している学校の偏差値とする。また、「縦社会」を作るにあたって社会的比較を行っていると考え、その結果とネット炎上との関係を探ることも目的とする。

本研究は仮想の場面を提示した質問紙調査を行なった。調査対象は筑波大学情報学群知識情報・図書館学類の授業を履修している学生とした。仮想の存在 A の所属大学の偏差値を高く設定し、彼と社会的比較して何を思うか、そしてネット炎上において批判的書き込み等を行いたいかを質問した。そして仮想の存在の偏差値を調査対象と同じくらい、それより低く設定した場合とで、書き込みへの意欲が変化するかを分析した。また、比較をして思ったことと、ネット炎上への書き込みへの意欲等との相関を分析した。

分析の結果、ネット炎上の対象者の偏差値が調査対象者より高い場合と比べ、調査対象者と偏差値が同じくらいの場合に、ネット炎上において批判を行いたいという意欲が高いことがわかった。また、ネット炎上対象者と調査対象者の大学偏差値が同じであるが、調査対象者がネット炎上対象者の偏差値を上だと感じた場合において、「回避的行動」とネット炎上への書き込み意欲に相関が見られた。加えて、調査対象者がネット炎上対象者を偏差値的に下だと考えた場合、「自己目標に基づく意欲感情」とネット炎上における書き込み意欲に相関が見られた。

ネット炎上の対象者の偏差値が調査対象者より高い場合と比べ、調査対象者と偏差値が同じくらいの場合に、ネット炎上における批判書き込み意欲が高かったのは、所属大学への同一視と「欲求不満一攻撃仮説」が関係しているのではないかと考えた。つまり、大学への評判を重要視し、その評判を保ちたいという目標を、同程度の偏差値の学生が問題行動を起こしたことで妨害されたと感じ、攻撃・批判を行なっているのではないかと考えた。

本研究の結果は、『「炎上」と「拡散」の考現学』の主張を裏付けるのではなく、また別の構図が浮かび上がる、というものになった。『「炎上」と「拡散」の考現学』を読んだだけではわからない、ネット炎上対象者と書き込む側の偏差値が同じくらいの場合に、批判が書き込まれやすい、というネット炎上の現状を指摘できた。

(指導教員 大澤文人)